

## 2018年度協約・協定改訂第1回団体交渉

本部は8月17日、2018年度協約・協定改訂に向け、第1回団体交渉を開催しました。J R 東海労の要求趣旨、会社の交渉に臨む基本姿勢は以下の通りです。第2回団体交渉は8月24日13時30分からです。

### J R 東海労働組合要求主旨

J R 東海は、2018年度第1四半期の決算において、またしても過去最高益を更新した。組合員をはじめとする現場で働く労働者の苦労と我慢によって最高益となったことは、改めて言うまでもないことである。

この間、労使関係や労働条件の改善、安全確立に向けて組合が申し入れてきた組合員の切実な要求は、会社の不誠実な姿勢によって、その殆どが改善されないままとなっている。このことは、これまで現場第一線で汗水垂らして働き、連続した過去最高益を導き、会社を発展させてきた労働者の気持ちを全く聞き入れない儲け第一の会社であることの証左である。

人事賃金制度の改訂から12年が経過し、基準昇給額が最低額の100円となり、会社が組合の改善要求に応じないために、標準乗数4で、僅か400円しか昇給しないという社会的にも異常な事態にある。現行の人事賃金制度は、組合員はもとより現場で働く社員が努力したとしても、会社の恣意的な思惑により社員の昇格が決められるがゆえに、「会社に気に入られるための社員間の競争」が煽られるという状況にある。このような制度は、チームワークを必要とする現場の輪を破壊することとなり、何よりも組合員はもとより現場で働く社員の意欲を喪失させる以外の何ものでもない。現場社員の意欲を奪うような人事賃金制度は、間違いなく将来会社の屋台骨を揺るがす事態に繋がる。従って、即刻改善すべきである。

労使関係の問題をはじめ、上には厚く下には薄いベアの配分、要員問題を

発端とする休日出勤や年休問題等など、会社は一方的に解釈と主張を繰り返し、組合の要求に耳を傾けようとしめない。特に60歳以降の雇用については、組合員が意欲を持って安心して働ける制度ではない。今労働者不足が深刻な状況にあると報道されている。それは人手不足により企業倒産までも起こしている状況のようである。今後少子化による労働者の減少は更に加速することは必然である。従って、今後高齢者の労働力が会社にとって益々貴重なものになることは明らかであり、高齢者が安心して働けるようにしなければならない。そのための改善が絶対に必要である。更に今後JR東海に就職希望者が集まらないような状況も十分にあり得ることである。そのような状況を招かないために、そして、全ての社員が今後も会社を退職せずに安心して働き続けられるために、今労働条件や労働環境の大幅な改善が必要である。人が去り、人が集まらない状況が起きてからでは手遅れである。

リニア中央新幹線建設について、会社はJR東海労と沿線住民の意見を無視し、政府の財政投融资を受け建設を進めている。リニア中央新幹線建設は、自然環境の破壊であり、現状の労働条件のさらなる切り下げ、会社経営を圧迫するだけである。リニア建設を巡り談合事件が発生した。社会的にも非難されたリニア中央新幹線建設は即刻やめるべきである。

JR東海労は、職場に山積した問題を解決し、将来にわたって安全で安心して働ける労働条件と職場環境をつくる必要があると考える。会社は真摯に組合の要求、意見を受け止め、あらゆる問題の改善をはかるべきである。

以上の主旨に踏まえ、2018年度基本協約・協定改訂について誠意ある回答をすること。

# 会社の考え方

## 協約改訂交渉冒頭挨拶

今年度の協約改訂交渉を開始するにあたり、会社側の基本的認識について述べさせていただきます。

まず、当社を取り巻く経済状況・景気動向ですが、内閣府の7月の月例経済報告によれば、景気は緩やかな回復基調が続いているとされ、先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、緩やかな回復が続くことが期待されるとしている一方で、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の影響についても引き続き注視していく必要があり、また平成30年7月豪雨が経済に与える影響を十分に留意する必要があるとされています。

当社の経営状況を見ると、平成30年度第1四半期の輸送状況は、ビジネス・観光ともにご利用が順調に推移したことから新幹線の輸送人キロが前年同期比101.8%、在来線の輸送人キロは前年同期比で100.0%となりました。また、第1四半期における単体の運輸収入は、前年同期比2.4%増（79億円増）の3,388億円となりました。

輸送の状況は、平成30年7月豪雨のため高山線の一部区間において運転見合わせが発生し、飛騨金山～下呂間については運転再開したものの、現在も坂上駅～猪谷駅間でバスによる代行運転を実施していますが、それを除けば概ね安定して推移しています。

猛暑が続いており、熱中症に十分に留意しつつ、引き続き安全安定輸送の確保を最優先に、サービスの一層の充実を図り、業務執行全般にわたる効率化・低コスト化等の取組みを続けることで、収益力の強化に努めるとともに、中央新幹線建設をはじめとする次世代に向けての経営課題を着実に推進していく必要があります。

今次交渉においては、対等な立場で議論を重ね、将来にわたって社員が誇りとやりがいを持てる働きやすい職場作りを目指して参りたいと思います。

会社としては、当社の労働条件は既に極めて高い水準に到達していると考えていますが、世の中の変化も踏まえながら、社員が意欲を持って働き続けられるような制度が何か、常に検証し、労使の認識をすり合わせていくことが重要であると考えています。

以上のような認識のもと、今次交渉において真摯に議論を行って参りたいと考えていますのでよろしく申し上げます。

以上